

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 16 No.15 2014年08月15日号

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp

Copyright 2014 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

■エッジテックジャパン、欧州の会議用スピーカーフォン Konftel 社の製品の取り扱いを開始

エッジテックジャパン株式会社(東京都港区)は、Konftel 社会議用スピーカーフォン「UC コンファレンスフォン」の取り扱いを開始したと発表。(取材:7月29日)

エッジテックジャパンは、1987年創立。音響・会議システム等の輸入販売及びシステム設計、施工を行う。televic 社の同時通訳システムや会議システムなども手掛けており、今回、スウェーデンの Konftel 製品の日本国内での販売を本格的に開始する。販売代理店は、松田通商株式会社(東京都港区)。

Konftel(コンフテル)社はスウェーデンに本社を置く、会議用スピーカーフォンのメーカー。1988年に現在の CEO である Peter Renkel 氏と当時の友人で現在音響デザイナーである John Erik Eriksson 氏により創業され今日までにヨーロッパにおけるリーディングカンパニーとして成長してきた。北米や世界各国に営業拠点を置く。また、大型導入事例のひとつとしては、国内拠点だけで600台導入されているドイツの大手自動車メーカー ベンツの例がある。欧州企業などを中心に多数の導入実績がある。

「スウェーデンは、世界に著名な企業がたくさんある。日本人にもなじみが深い、エリクソン、IKEA、H&M など業種を問わず多くの企業が活躍している国だ。Konftel 社は、そういった国に世界初の音声会議用システムメーカーとして誕生した。ヨーロッパではよく知られたメーカーで、5-6年前からグローバル展開を行っている。日本もこれから本格的に市場開拓を行っていく。」と語るのは、Konftel 社アジア太平洋ビジネス開発ディレクター Simon Chin 氏。同氏はこの業界に20年にわたり実績を積み重ね現在は、Konftel 社のアジア太平洋地域の事業開発の責任者である。日々、アジア太平洋地

域を飛び回りパートナー開拓やサポートなどを行っているようだ。

Konftel 社の UC コンファレンスフォンは、小規模から大規模の会議室(「Konftel 250 シリーズ」「Konftel 300 シリーズ」)からモバイル環境(「Konftel 55 シリーズ」)での用途に対応したラインナップ(7モデル)を揃えている。

「対応ネットワークやデバイス、あるいは、会議に必要な十分な機能を揃え、いつでもどこでも使える多機能なオールインワン製品だ。」(Simon Chin氏)

全てのモデルでは、OmuniSoundHD という高音質オーディオ技術を搭載。また、モデルによっては、システムの機能の追加などについてはソフトウェアのアップグレードに対応しており、常に最新の性能と機能を利用できるようになっている。さらに、音声会議接続ガイド&グループ登録、電話帳機能、多言語対応、SD カード録音などの機能もある。

以下、個別に製品の簡単な概要を見ていく。

まず、Konftel 250 は、数人の小会議から16人以下(目安)の中会議室まで対応しているアナログ接続対応のシンプルなスピーカーフォン。寸法は、幅240mm x 高さ77mm。重量は1kg。



Konftel 250 (Konftel)

次に、Konftel300 シリーズは、同社にとってのフラッグシッ

プモデル。Lync、Avaya One-X、Skype 用のマイクスピーカーとしても使用できる。その際はメニューで切り替えるだけの操作。拡張マイク対応。そのほか、PA 拡張オプションを備えているため、大規模な会議や講堂などでも使用できる。また、様々な種類の回線をつなげることができ、回線同士の橋渡し(ブリッジ)も行える。



Konftel 300IP (Konftel)

「Konftel 300」は、アナログ、USB、携帯電話接続に対応しており、寸法は、幅 240mm x 高さ 77mm。重量は 1kg。

「Konftel 300IP」は、SIP 対応モデル。同時 5 者通話が可能。電源は Power Over Ethernet (PoE) に対応。直感的に設定できるメニューも特徴。寸法は、幅 240mm x 高さ 77mm。重量は 955g。

これらのほか、現在エッジテックジャパンでは取り扱っていないが、携帯電話の SIM カードに対応した「Konftel 300M」、ワイヤレス環境で使える「Konftel 300W」も Konftel 社として提供している。いずれも、モバイル用途向けのため充電可能なバッテリーを搭載している。「今後日本の規格に対応する予定だ。」(Simon Chin 氏)

最後に、Konftel 55 シリーズは、PC、携帯電話、スマートフォン、卓上電話機などと接続して使用する音声会議用スピーカーフォン。

電話と PC を同時接続することで、電話会議音声と PC 会議音声のブリッジとしての機能も提供する。また、接続されている機器は、高解像度の LCD カラーディスプレイに表示され、タッチボタンで簡単に選択、切り替えることができる。

USB、卓上電話機、携帯電話、スマートフォン、ヘッドセットに対応する。



Konftel 55 (Konftel)

「Konftel 55」は、小規模会議向けスピーカーフォン。卓上電話、USB、携帯電話と接続できる。一方、「Konftel 55W」は、小から中規模会議に対応するスピーカーフォン。Bluetooth、卓上電話、USB、携帯電話との接続が可能。充電電池を内蔵しているため、場所を選ばず音声会議を始められる。拡張マイクを接続すれば集音範囲が 3m~6m に広がる。なお、両モデルとも、寸法は、222W x 68H x 206D mm。重量は 640g。

機種	希望小売価格
KONFTEL55W	¥80,000
KONFTEL55	¥70,000
KONFTEL250	¥80,000
KONFTEL300	¥90,000
KONFTEL300IP	¥110,000

Konftel 各製品希望小売価格 (エッジテックジャパン)

「他社の同類製品は、ひとつの用途に対してひとつのモデルの製品が多いが、当社は、複数 UC メーカーに1台で対応していることなどひとつのモデルで複数の用途に対応したオールインワンを特徴としている。もちろん、操作は簡単で、プラグ&プレイで他の端末と接続できるし、性能や最新機能はソフトウェアアップグレードで行える。」(Simon Chin 氏)

アジア太平洋地域では、5 年前に中国に参入して、現在は、韓国、シンガポール、オーストラリア、インドなどでビジネスの範囲を拡大している。また並行して、アメリカでは、アバ

イア社、欧州では、シーメンス社、そして中国では、ファーウェイ社などとのパートナーシップも締結している。

「今回の本格販売にあわせ、国内の企業でも何社か取り扱いを始めていただいている。会議用スピーカーフォンは近年、さまざまな製品が各社から開発・販売されてきているが、Konftel社製品はその中でも他社製にない特徴を持っている。当社はKonftel社の日本国内ディストリビュータとして取扱いさせていただく。」(エッジテックジャパン セールスディレクター 松岡 潤治 氏)

■ブイキューブ、ビジュアルコミュニケーションプラットフォーム「V-CUBE One」を発表

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、ビジュアルコミュニケーションプラットフォーム「V-CUBE One」を9月1日より提供開始する。(取材:8月5日)

V-CUBE Oneは、これまで個別に利用契約が必要だった「V-CUBEミーティング」、「V-CUBEセミナー」、「V-CUBEドキュメント」、「V-CUBEセールス&サポート」、「V-CUBEポータル」の各サービスを一契約で自由に組み合わせて利用できるようにする新しいサービス。テレビ会議・電話会議システムとの連携や国際間の専用ネットワーク「Global Link」も提供する。



V-CUBE Oneのサービスイメージ (ブイキューブ)

昨今のビジュアルコミュニケーションの利用シーンは、モバイルデバイスやクラウドの普及の後押しもあり、従来の社内会議や拠点会議にとどまらず、研修や教育、顧客への営業活動、サポート、パートナー企業への製品トレーニング、あるいは、業界特化型(文教・製造など)の利用など幅広い業務コミュニケーションとして急速に広がりを見せてきている。

そういった中、V-CUBEサービスにおいて、利用シーンにあわせて異なる契約を個別に行う必要があり、価格の面などから導入検討に慎重になる顧客、さまざま機能や追加オプションなど複雑な料金体系がわかりにくいという声があった。

そこで、「会議室」や「セミナー」単位といったサービス毎の契約方法とは違い、V-CUBE Oneでは、1ポートあたりの月額料金で利用できるシンプルな利用体系を導入(ポート制)。1契約で、顧客がV-CUBEサービスを自由に組み合わせ利用できるようにした。

たとえば、10ポートの契約で、3拠点との会議を2部屋、4拠点との会議を1部屋といった会議の利用のほか、全国10拠点に向けた研修や教育での利用も可能となる。

加えて、PC、スマートフォン/タブレット、テレビ会議のほか、電子黒板、ウェアラブルデバイス、ネットワークカメラ、ドローン(無人航空機)といったカメラが付いたデバイスをV-CUBE

Oneにおいて対応していくとしている。

「V-CUBEミーティングひとつの利用であれば料金はあまり変わらないが、ポート制のため、他のサービスも柔軟に利用できるメリットがある。また、複数利用をするユーザーにとっては利用コストを下げるのが可能だ。」(ブイキューブ 代表取締役社長 間下 直晃 氏)

また、V-CUBE Oneに合わせて、法人向けのテキストチャットサービ

ス「V-CUBE Gate」も提供開始する。

料金は無料だが、フリーのチャットアプリとは違い、ビジネス利用に求められるセキュリティや管理の機能を付加している。たとえば、セキュリティポリシーで、社内利用のみや決められた取引先会社のみといった設定のほか、ログによって利用状況を記録することもできる。さらには、V-CUBE サービスとの連携も可能だ。チャットのボタンひとつで V-CUBE ミーティングに参加したり、研修に参加したりといったことがシームレスに行える。

「チャットは日常ツールになっている。一方、Web 会議は広がってきたとはいえ、まだまだ使ったことがない、あるいは、さわったことがない人も多い。チャットを法人向けに提供することで、V-CUBE Gateを入口としてビジュアルコミュニケーションをより活発に使ってもらいたいと期待している。」(間下直晃 氏)

同社によると、日本国内にはターゲットとなる中堅企業と大企業は約 55 万社あるが、Web 会議を導入しているのはそのうちの約 1 万社(普及率:2%)という。国内の同市場は現在の 100 億円規模(米市場:2,000 億円)と、まだまだ規模は小さいが、スマートデバイスやクラウドの普及で幅広い業務コミュニケーションとして広がりを見せてきているため、今後 5 倍から 10 倍へと拡大すると期待している。

そういった中で、東証マザーズ上場や東南アジア展開、M&A や OEM などこれまで国内外でさまざまな戦略的な取り組みを実施しながら、ブイキューブは、今後、単なる Web 会議の販売から脱皮し、トータルな法人向けコミュニケーションツールを提供する企業へと目指していく。今回の V-CUBE One の発表はそういった同社の展開の一環でもある。

■データコントロール、リーズナブルなビデオ会議ソリューション「telyHD Pro」の受注を開始

株式会社データコントロール(大阪府大阪市)は、Tely Lab 社(米国)と販売契約を締結し、同社製ビデオ会議製品「telyHD Pro」の受注を 7 月 31 日に開始した。(7 月 31 日 @Press)

telyHD Pro は、カメラやマイク、WiFi/Ethernet などネットワーク機能をオールインワンで含まれたコンパクトなビデオ会議アプライアンス。HDMI ケーブル 1 本で会議室のプロジェクタに接続し、設定についても付属のリモコンで簡単にセットアップができる。オプションで USB 接続ノイズキャンセリング対応スピーカマイクも接続可能で 5 人から 10 人程度の会議に十分対応できるとしている。加えて、Windows、Mac 向けアプリ telyShare で PC から簡単にコンテンツを共有することもできる。なお、消費電力はわずか 5W という。



Tely labs 社 (データコントロール)

一方、標準でバンドルされている telyCloud という Tely Labs 社のクラウドサービスを利用すれば最大 6 拠点までの多地点会議を行うことができる。また、Skype や Blue Jeans などのビデオ会議サービスや、標準 SIP プロトコルをサポートしているため、シスコやポリコムなどのビデオ会議システムとも相互に接続する互換性を持つ。

「telyHD Pro w/ Audio Pod」の標準価格は、116,000 円(税抜)。「telyHD Pro Edition」の標準価格は 98,000 円(税抜)。出荷時期は 9 月 1 日から。

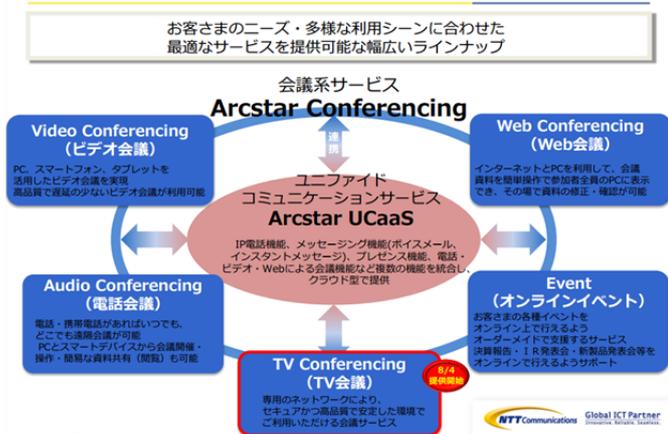
データコントロールは、ネットワークやセキュリティ機器の販売とサポートに特化したネットワーク・セキュリティ専門商社。独自の情報網を駆使し、国内外を問わず優れた製品やサービスをいち早く見出し、顧客に提供している。Tely HD Pro では、中小企業、SOHO から大企業までさまざまなソリューションを提案するとしている。

(次ページに続く)

■NTT コミュニケーションズ、会議系サービス「Arcstar Conferencing」のラインナップに、テレビ会議専用端末向けサービス「TV Conferencing」を追加

NTT コミュニケーションズ株式会社(東京都千代田区)は、8月4日、同社の会議系サービス「Arcstar Conferencing」のラインナップに、新たに TV 会議サービス「TV Conferencing(TV 会議)」を追加すると発表。(8月4日)

(別紙2-1) NTT ComのUC・Conferencingサービスラインナップ



Arcstar Conferencing のラインナップ

(別紙2-2) Arcstar Conferencing サービス比較

サービス名	TV Conferencing (テレビ会議)	Video Conferencing (ビデオ会議)	Web Conferencing (Web会議)	Audio Conferencing (電話会議)
ニーズ	顔を見ながら、映像付きの会議を行いたい 映像の品質を重視			電話(音声のみ)で手軽に
対応端末	専用端末	PC・スマートフォン・ タブレット端末	PC・スマートフォン・ タブレット端末	固定電話・携帯電話・ 電話会議端末
最大接続数	400拠点以上可能	最大20拠点 (今後拡大予定)	25人 (PC) / 会議室	400拠点 / 会議室
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 高品質な映像 操作が簡単 専用端末によるセキュアで安定した接続 専門スタッフによる手厚いサポート ビデオ会議との相互接続が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質の映像 操作が簡単 インターネット回線でアクセス可能 TV会議との相互接続が可能 	<ul style="list-style-type: none"> Web会議サービスで世界No1シェア 豊富な資料共有機能 録画機能など機能が充実 UCaaS、Web電話機、電話会議などNTT Comサービスとの連携機能が豊富 	<ul style="list-style-type: none"> 申込後、最短2時間で利用可能 対応端末が豊富 050 VoIPによる通話料無料 24時間365日のオペレーターサポート Web会議と連携可能

Arcstar Conferencing サービス比較

(上下: NTT コミュニケーションズ)

TV Conferencing は、TV 会議専用端末とともに専用ネットワークを使用して、セキュアで安定した通信環境において

高品質な映像会議を提供するサービス。NTT コミュニケーションズのグループ会社である NTT ビズリンク株式会社(東京都文京区)と連携し提供する。

スマートフォンやタブレット端末も利用する場合は、NTT コミュニケーションズで提供されている Arcstar Conferencing のサービスラインナップのひとつである「Video Conferencing(ビデオ会議)」と併用する形になる。

サポートについては、TV 会議サービス専門のスタッフチームを擁したサポートセンターを設けており、TV 会議専用ネットワークに関することから、TV 会議専用端末に関することまでフルサポートが可能となっている。

現在、Arcstar Conferencing は、ユニファイドコミュニケーションサービス「Arcstar UcaaS」や「Web 電話帳」と連携し、各サービスからシームレスに会議サービスを起動できる機能などを検討しており、今後も、顧客の利便性を高める機能・サービスを順次提供していく予定。

■ASUSTek Computer、企業向けに Web ベースのビデオ会議ソリューション「Chromebox for meetings」を発表

ASUSTek Computer(日本法人:エイスース・ジャパン)は、企業向けに Web ベースのビデオ会議ソリューション「Chromebox for meetings」(クロームボックス フォー ミーティング)を8月11日より販売開始予定と発表。(8月8日)

Chromebox for meetings は、Google Chrome OSを搭載した小型パソコン「ASUS Chromebox」(エイスース クロームボックス)に、リモコン、マイク、スピーカーユニット、高解像度HDカメラを加えた4点セットのビデオ会議ソリューション。ソフトウェアには、Google Hangouts+と会議室の管理が含まれる。

特徴としては以下のとおり。(1)数分で設置することができ、Google の Web 上の管理コンソールを使用することで、すべての会議やデバイスを管理することができる。(2)会議を始める際には、ダイヤルイン番号、パスワード、複雑な暗証番号は必要ない。部屋に入ったらリモコンをクリックするだけ。

加えて、ノートパソコンの画面をワイヤレスで共有することもできる。(4) Google Apps と統合されているため、他のメンバーを招待したり、Google カレンダーからテレビ会議の部屋の追加も簡単。(5)他の会議室、ノートパソコン、タブレット、スマートフォンなど最大 15 の場所から同時にビデオ会議に参加することが可能。(6) Chrome OS 搭載製品を利用していないクライアントとの打ち合わせも可能。



Chromebox for meetings (ASUSTek Computer)

製品名	ASUS Chromebox for meetings
型番	CHROMEBOX-M098U
カラー	ブラック
OS	Chrome OS
CPU	インテル® Core™ i7-4600U プロセッサ
メインメモリ	4GB
グラフィックス機能	インテル® HD グラフィックス 4400
記憶装置	SSD 16G M.2 (NGFF)※1
通信機能	IEEE802.11a/b/g/n, Bluetooth® 4.0, 1000BASE-T
外部ディスプレイ出力端子	HDMI×1, DisplayPort×1
インターフェース	USB3.0×2 (正面)、USB3.0×2 (背面)、SDメモリーカードリーダー (SDメモリーカード、マルチメディアカード対応) ×1、マイクロホン/ヘッドホン・コンボジャック×1
サイズ	幅124mm×奥行き124mm×高さ42mm
質量	約0.6kg
主な付属品	リモコン、マイク/スピーカー、HDカメラ、USBケーブル、HDMIケーブル、Ethernetケーブル、VESA規格対応マウント、電源コード、ユーザーマニュアル、製品保証書

主な仕様 (ASUSTek Computer)

ASUS Chromebox for meetings の価格は、115,000 円。初年度 Google ソフトウェア年間使用料 35,000 円。以上合計 150,000 円 (税別)。なお、2 年次以降は、Google ソフトウェア年間使用料 35,000 円。

保証については、ハードウェア (ASUS Chromebox for meetings) と 12 か月間の日本国内保証。また、24 時間サポートや管理コンソールがつく。

■プリンストン: Vidyo 社が UHD 対応製品を発表

株式会社プリンストン(東京都千代田区)によると、同社が製品を取り扱っている Vidyo 社が UHD (Ultra High Definition) 映像に対応した新モデル「VidyoRoom SE」を発表。(プリンストンお知らせ:7 月 18 日)

今回発売される新モデルによって以下のサポートが予定されている。(1)最新の映像圧縮方式 H.265(HEVC)など新技術への将来的なサポート。(2)既存のルームモデル「VidyoRoom HD-230」とマルチスクリーンテレプレゼンスモデル「VidyoPanorama 600」についても、4K 映像へのサポート。(3)既存の Vidyo 会議の運用管理サーバーや一部ライセンスが UHD 対応モデルに入れ替わる。

なお、8 月発売開始の UHD 対応製品については以下の通り。「VidyoPortal および VidyoPortal XL サーバー」、「VidyoPortal Virtual Edition 仮想化対応ソフトウェア」、「VidyoRouter および VidyoRouter XL サーバー」、「VidyoRouter Virtual Edition 仮想化対応ソフトウェア」、「VidyoOne 10 および VidyoOne 20 オールインワンサーバー」、「VidyoRoom SE」。

ビジネス動向-海外

■Acano 社、台湾の HyperNet 社との提携でアジアでの事業拡大に弾みをつける

Acano 社によると、台湾の HyperNet 社が Acano 社のパートナーネットワークに参画したと発表。(7 月 30 日)

HyperNet 社は、台湾をベースに、ユニファイドコミュニケーションおよび AV インテグレーションにおいてシステムインテグレーションサービスを行う企業。HyperNet 社がパートナーになることで、Acano 社としてはアジアでの拡大に弾みがつくと期待している。

HyperNet 社は、2,500 社の顧客企業を持ち、台湾と中国本土 6 か所にサービス拠点などを擁す。HyperNet 社は、Acano 社の「coSpaces」をクラウドあるいはオンプレミスで提

供する。

Acano 社は、全世界に 200 社以上の顧客があり、2014 年には、ガートナー社から「Cool Vendor in Unified Communications」と称された。

導入・利用動向-国内

■TKC、シスコのコラボレーションソリューションを導入

株式会社 TKC (栃木県宇都宮市) は、シスコシステムズ合同会社 (東京都港区) が提供するコラボレーションソリューションを導入したと発表。(シスコシステムズ:8 月 5 日)

TKC は、昭和 41 年 (1966 年) 創業。会計事務所と地方公共団体の分野に専門特化した情報サービスを展開している。これまでの社内と社外の会議には場所や時間の制約から、参加者の日程調整で開催が遅れたり、必要な会議が開催できないなどの不都合があった。加えて、トラブル発生時の顧客サポート時において、電話では正確な状況把握が難しく解決までに時間がかかる、訪問では即時性に欠けるなどの問題も指摘されていた。今回の導入はこうした課題の解決を図るためのもの。

TKC では、従来からの拠点間の会議に利用していたビデオ会議システム (テレプレゼンス) に加え、既設のネットワーク環境を利用して、社員が手持ちの PC やスマートデバイスからアクセスが可能となる Web 会議システム (Cisco WebEx) を全社で採用した。Cisco WebEx を採用することでプラットフォームを問わず会議参加用 URL を案内するだけで簡単に会議開催が可能となる。さらに、安全なリモートアクセスを実現する VPN テクノロジー「Cisco Any Connect」も採用した。

社内で行う会議、研修、業務打ち合わせ、取引先との定例会議などを順次 Web 会議と併用したり、顧客との Web 会議でシステム操作のサポートや顧客が直面するトラブルの救済、あるいは、自然災害が発生した場合における現地の状況把握などへの活用を予定しているという。

TKC では、今後も最新の ICT 技術を積極的に取り入れる

ことでコスト削減を図るとともに、サービス付加価値向上による顧客満足の実現していくとしている。

TKC

<http://www.tkc.jp/>

導入・利用動向-海外

■インダスインド銀行、インドで初めての対面式オンラインバンキングで Vidyo 社技術を採用

インドの民間銀行のひとつであるインダスインド銀行は、モバイルおよびデスクトップ・ベースのバンキングサービス「ビデオ・ブランチ (video branch)」をインド全国に展開するため、Vidyo 社を採用した。(Vidyo 発表、8 月 8 日ビジネスワイヤ)

インダスインド銀行は、1994 年に営業を開始。以来、個人および法人顧客のニーズに応えたサービスを提供。インドの 439 地域にわたって 638 の支店と 1238 台の ATM を有する。また国外ではロンドンとドバイに営業拠点を置く。同行では技術がビジネスを推進すると考えており、顧客の利便性やロイヤリティの向上に資するビデオ・ブランチは、ますます大きくなる顧客ベースに対応する“銀行取引の新たなフロンティア”と期待している。

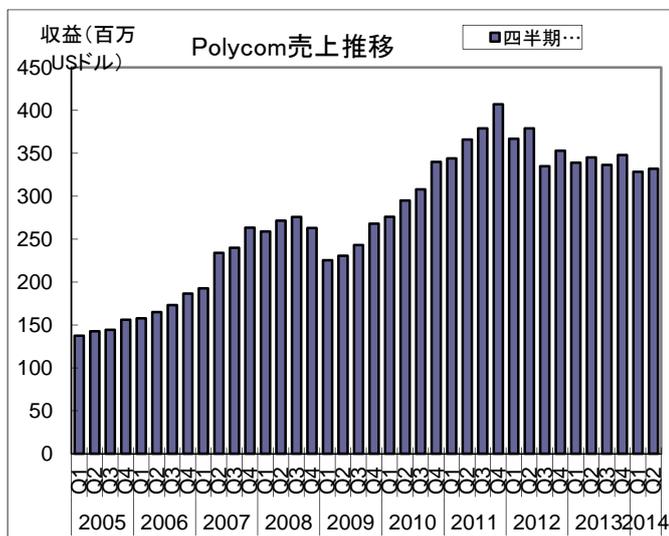
ビデオ・ブランチ・サービスは、インダスインド銀行のすべての顧客を対象とした無料のサービス。テレフォンバンキングで提供しているすべての銀行サービスに対応する幅広い情報と取引を提供する。また、定期預金や積立預金など金融取引や、NEFT (国営電子振替決済) や RTGS (即時グロス決済) による送金なども行える。なお、サービスは、Android (2.3 以上)、Apple モバイルデバイス (iOS 6 および 7 以上) で利用できる。

Vidyo 社によると、このビデオ・ブランチ・サービスは、同社の VidyoWorks プラットフォームと API により実現していると発表している。

IndusInd Bank <http://www.indusind.com/>

決算発表-海外

■米ポリコム社 (NASDAQ 上場)



ポリコム社(米国、カリフォルニア)は、2014年度第2四半期の決算を発表。(米:7月23日、ポリコムジャパン:8月1日)

収益は、3億3,200万ドル(前四半期:3億2,850万ドル)で、非GAAP純利益が3,000万ドル、希薄化後1株あたりの利益が21セントとなった。また、GAAP純利益は900万ドル、希薄化後1株あたりの利益は6セントとなった。非GAAP EPS(1株あたりの利益)が前年比40%、GAAP EPSが100%増加したことになる。

当四半期におけるキャッシュフローは、6,200万ドルで、2014年第2四半期最終日における現預金残高は6億4,000万ドル。そのうち2億3,400万ドルは海外に保有する残高となる。

地域別では、南北アメリカが1億6,780万ドル(51%)、欧州中東アフリカ(EMEA)が8,310万ドル(25%)、アジア太平洋が8,110万ドル(24%)となった。

一方製品別では、UCグループシステムが2億1,850万ドル(66%)、UCパーソナルデバイスが5,360万ドル(16%)、UCプラットフォームが5,990万ドル(18%)であった。

なお、今回の決算発表にあわせて、同社取締役会にお

いて、新たに2億ドルの自己株式の取得の承認を行ったとしている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■BIG PADを活用したクラウド型Web会議サービス「TeleOffice」体感セミナー

日時:8月20日(水)/9月3日(水)/9月17日(水)14:00~16:00
会場:シャープ株式会社 東京支社
主催:シャープビジネスソリューション株式会社
詳細・申込:
<http://www.sharp-sbs.co.jp/event/regular/teleoffice-a.html>

■後悔しないWeb会議を選ぶために事前チェックすべき「6つのポイント」セミナー~大阪・東京で同時開催!~

日時:8月21日(木)15:30~17:00(受付開始:15:00)
会場:キャノンソフトウェア 大阪堺筋事業所
主催:キャノンソフトウェア株式会社
詳細・申込 <https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/226>

■後悔しないWeb会議を選ぶために事前チェックすべき「6つのポイント」セミナー~東京・大阪で同時開催!~

日時:8月21日(木)15:30~17:00(受付開始:15:00)
会場:キャノンソフトウェア 本社(東京都品川区)
主催:キャノンソフトウェア株式会社
詳細・申込 <https://reg.canon-soft.co.jp/public/seminar/view/224>

■ポリコム&プリンストン ソリューションフォーラム2014

日時:8月21日(木)14:00~18:00(受付13:00~)
会場:ザ・リッツ・カールトン東京(東京都港区)
共同開催:ポリコムジャパン株式会社/株式会社プリンストン
詳細・申込:
<http://www.princeton.co.jp/news/2014/07/201407281100.html>
※アイ・ティ・アール シニア・アナリスト 館野 真人氏の基調講演もあり。
※当日はプリンストンの大阪支店・福岡支店において、ビデオ会議でのセミナー 視聴も予定。

■Polycom Day:『さまざまな「距離」を越えて-ポリコムが解決します!』最新ソリューションのご紹介(予定)

日時:8月27日(水)15:30~16:30(受付:15:15)
会場:ポリコムジャパン 新オフィス(東京都新宿区)
主催:ポリコムジャパン株式会社
詳細・申込: <http://www.polycom.co.jp/company/events.html>

■【“見える”カレッジ】Web 会議サービスの活用メリットとは ～働き方を変える 遠隔仕事術～

日時:8月28日(木)14:00～16:30(受付開始:13:50)

会場:ブイキューブ本社

主催:株式会社ブイキューブ

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/139>

■ワークスタイル変革 Day 2014

日時:9月4日(木)午前・午後

会場:ソラシティカンファレンスセンター(東京・御茶ノ水)

主催:株式会社リックテレコム

詳細・申込:<http://www.ric.co.jp/expo/wsd2014/index.html>

■パナソニックの Web 会議ご紹介セミナー

～成功の鍵は「音だけではなかった！」 パナソニック×ヤマハで Web 会議の勤所を徹底解説～

日時:9月5日(金)15時30分～17時30分(受付:15:00)

会場:パナソニック ソリューションテクノロジー本社 浜松町ビル

主催:パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社

詳細・申込:

<http://panasonic.co.jp/pstc/event/20140905/index.html>

*ヤマハの講演もあり。

■【“見える”カレッジセミナー in 大阪】お待たせしました！ これがV-CUBEの充実したサポート！ Web 会議のプロが全て お見せします

日時:9月12日(金)14:30～17:30(受付開始:14:00～)

会場:NSEリアルエステート梅田店A室(大阪市北区)

主催:株式会社ブイキューブ

詳細・申込:<https://vcube.smktg.jp/public/seminar/view/141>

国内その他:<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他:<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

* イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年 http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作:カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

情報発信について

CNAレポート・ジャパン(橋本啓介)では、国内外における、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニューズメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

下記配信では、市場トレンドを見ていく上で参考になるとと思われる情報を精査したうえで配信しています。皆さまの情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

定期レポート(15日・月末発行):各社からのプレスリリース、CNAレポート・ジャパン直接取材による記事

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter(それぞれほぼ毎日配信):定期レポートであつかつている各社からのプレスリリースや直接取材に加え、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cnar.jp> 「情報配信について」をご覧ください。

CNA レポート・ ジャパン PR

■株式会社日立ハイテクノロジーズ

<http://cnar.jp/Hitachi-HighTech3.htm>

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。

前号の7月31日号ですが、日付に誤りがあり7月15日号となっております。すでに7月31日号に修正されておりますが、読者の皆様には混乱を生じさせたかと存じます。お詫び申し上げます。

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本啓介